



日本産ホソカタムシ類図説
ムキヒゲホソカタムシ科・コブゴミムシダマシ科
青木淳一著
B5判, 93頁 [カラー]
昆虫文献六本脚 3,800円+税

青木淳一さんといえば、土壌性ダニの大家として大変有名な先生である。大著「土壌動物学」(1973年、北隆館)の立派な背表紙を見るだけで、青木さんの偉大さがわかってしまうものである。

そんなエライ先生が、退職後ホソカタムシ(ヒラタムシ上科ムキヒゲホソカタムシ科とゴミムシダマシ上科コブゴミムシダマシ科)の研究を始めた。いや、再開された。

その後のご活躍の様子は、会員のみなさんはどなたもご存知だろう。きっと青木さんの頭のなかにはホソカタムシでいっぱいなのに違いない。なにしろ、5mmに満たない虫に「grandis」なんて命名をしちゃう方なのである。普通(あくまでも、虫屋としての「普通」だけ)、グランディスなんていうとオオクワガタとかヒゲナガガミキリとか誰が見ても立派な虫につける名前である。

御自身で描かれた精緻な図を駆使して解説された前著「ホソカタムシの誘惑」(2009年、東海大学出版会)には48種が解説され、一気にホソカタムシというマイナーな虫を身近なものにした。僕のまわりでもホソカタムシに興味を持ち始めた友人が続出したし、僕自身、ホソカタムシのカッコよさに魅せられてしまった。最近では「ホソカタムシを狙って」採集に出かけることもしばしばである。本当にホソカタムシに誘惑されてしまったわけである。

僕自身のことはさておき、「ホソカタムシの誘惑」が、日本のホソカタムシ相の解明に果たした役割は大変大きいものがある。多くは青木さん自身によってだが、毎年いくつもの新種や日本未記録種が発見されることになったし、ホソカタムシの分布記録が発表される機会も増えた。

日本産ホソカタムシ類図説
 ムキヒゲホソカタムシ科・コブゴミムシダマシ科
 Cylindrical Bark Beetles of Japan
 Families Bostrychidae and Zopheridae



青木淳一 著
 昆虫文献 六本脚

さて、その青木さんが、またしてもホソカタムシの本を出版された。

今回掲載解説されたのはなんと65種。日本産既知種のすべてである。昨年末、Edaphologia (89) (日本土壌動物学会)に記載されたチョーカッコいい新種 *Pycnomerus yoshidai* ツチホソカタムシ、さらには今年記録されたばかりの *Bitoma sulcata* ムナグロナガセスジホソカタムシまでも図示解説されている。「誘惑」から、たった3年しかたっていないのに17種も増加したのは、驚愕以外の何ものでもない。ちなみに多くの雑甲虫屋にとってバイブル的図鑑である、原色日本甲虫図鑑 (III) (1985年、保育社)には、「ホソカタムシ科」として25種が1プレートに図示(他にコブゴミムシダマシ科3種、タマムシモドキ科1種)されているだけであるから、現在では、この図鑑は少なくともホソカタムシの同定には殆ど使えない。

「誘惑」では和名に「ホソカタムシ」がつかないという理由(=旧ホソカタムシ科ではない)で、掲載されていなかった(元祖)コブゴミムシダマシ科の *Phellopsis* (アトコブゴミムシダマシ) や *Usechus* (ヨコミゾゴミムシダマシ)、さらには近年この科に編入された *Monomma* (タマムシモドキ) もちゃんと掲載されている。

また、今回の本には、全ての種について鮮明な原色拡大写真が載せられているのも魅力の一つである。今回初めてカラーで図示される種も少なくない。

「誘惑」にあった青木さんの手によるモノクロ全形図は非常に美しく、また標本と較べながらの同定には大変有用ではあるが、残念なことに、まだ見たことのないムシのイメージが湧きにくい。今回、「誘惑」と見比べてみてあらためてカラー写真(=色彩)から得られる情報の多さを認識した。

しかし、その一方で、手書き図の有用性も再確認することになった。青木さんによる新種記載には同定に有用なパーツの図が多用されているが、この本も同様である。部分図はやはり写真より絵

46. ムキヒゲホソカタムシ *Boltonia granulata* (Sharp, 1855)

Cylindrus granulatus Sharp, 1855, p. 40.
Boltonia granulata Sharp, 1855, p. 40. (fig. 10).
 2009, p. 8. 図 46. 10. 11. 12. 13. 14. 15.

図 46. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65.



47. ヨコミゾゴミムシ *Boltonia uliginosa* Sharp, 1914

Boltonia uliginosa Sharp, 1914, p. 42. (fig. 11).
 2009, p. 8. 図 47. 11.

図 47. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65.



の方が良いと思う。不要な情報は全てカットされ、有用な情報のみが目に入る。しかも、親切なことに図中に同定の視点が文字で記入されている。この手法は、むし社発行の「BE-KUWA」とか「クワガタムシ大図鑑」などでも使われているが、解説と図を見比べなくてもよいことから、スピーディーな同定が可能となっている。

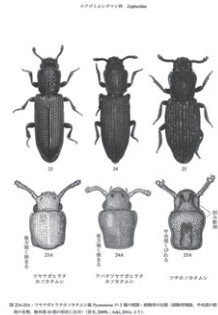
いわば、ほぼ絵合わせだけで、非常に正確な同定ができてしまうのである。「英文が付いていないから外国の研究者には評価されない」なんて言う方もいるかもしれないけれど、日本語が読めなくても日本産ホソカタムシの正確な同定ができる、というのは実にスバラシイことではないか、と思う。

じゃあ、図だけで済ませているか、ということそうではなく、種ごとの詳細な解説のほかに複数の種を有する属にはちゃんと種への検索がついている。シノニミックリスト、4ページもの参考文献、さらには32枚におよぶ「ホソカタムシの住む枯れ木」の写真とその解説、おまけに？青木さん自

身の生態写真や顔写真までついている。

いわば、至れり尽くせりの図鑑なのである。

ただ、僕個人にとっては残念なことがひとつあった。それはオオダイヨコミゾコブゴミムシダマシのアンテナが出ていないことである。この標本は僕が青木さんの「喜寿祝い」に差し上げたものだけど、こういう本に図示されるのなら、ちゃんとアンテナを出した標本を差し上げるべきだった。なにしろ、これ以外の図示標本は全部アンテナがちゃんと出されていたのだ。



(秋田勝己)

定期購読のご案内

昆虫用品は **むし社**

検索

月刊むし

B5判, 56~80頁 毎月20日発売
定価1200円 (送料100円)

「月刊むし」は、1971年3月に創刊された昆虫専門の月刊雑誌で、30年以上続いて発行されています。過去のバックナンバーの内容はむし社HPをご覧ください。
<http://homepage2.nifty.com/mushi-sha/>



495号 (2012年5月号)
2011年の昆虫界をふりかえって

- 蝶界
- 蛾界
- 甲虫界
- トンボ界
- アマチュア界

494号 (2012年4月号)

ギフトチョウ特集号

- ベトナム中部コンツム省産マグダレインコクワガタの1新亜種

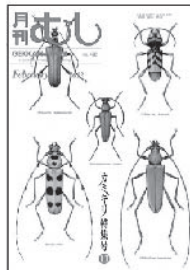
「月刊むし」定期予約購読

本誌は一般書店での販売のほか、定期予約購読も行っております。定期予約の場合、送料は無料で、次のように誌代も割引となりますので、ぜひご利用下さい。

6ヶ月 予約 定価 7200円 → 7000円
12ヶ月 予約 定価 14400円 → 14000円
24ヶ月 予約 定価 28800円 → 28000円

お申し込み方法

郵便振替用紙に「月刊むし予約」と明記のうえ、下記の口座あてにご送金ください。
郵便振替口座 00160-5-159262 むし社
新規お申し込みは、当月発売分よりとさせていただきます。



493号 (2012年3月号)

- 最近のタマムシ研究 (2)
- 伊豆諸島のカミキリムシ相 (下)
- スラウェシ島産ネプトクワガタの2新種

492号 (2012年2月号)

カミキリ特集号

- 小笠原諸島におけるカミキリムシの最近の知見
- プエラモトコバネカミキリの再発見
- カミキリムシの食樹をめぐって
- もうひとつのノコギリヒメコバネカミキリ再発見記

むし社

〒164-0001 東京都中野区中野 2-23-1-209

Tel. 03-3383-1461~1462

Fax. 03-3383-1467